

中央アルプス：千畳敷・三ノ沢岳山スキー報告

【山城】中央アルプス：木曾駒が岳・三ノ沢岳

【日程と天気】2019年5月18日（土）晴れ時々曇り

【メンバー】CL菊池・池田・薄井・会員外1名

【行程】

千葉—駒ヶ根 IC—萱の台駐車場—バス—しらび平—ロープウェイ—千畳敷—極楽平—伊奈川源頭部—三ノ沢岳—伊奈川源頭部—極楽平—千畳敷—ロープウェイ—しらび平—萱の台駐車場—帰葉



・2012年の5/26に続いて2度目の三ノ沢岳登頂山スキーを実現できた。残雪期は今回で4回目の千畳敷は、積雪は170cm、昨年5/12で積雪160cm、昨年より残雪量は多かった。今期は2月までは小雪で早くも残雪期のTバーリフト運行は中止と決定したようで、寂しい千畳敷の風景である。2007年初めてこのエリアの山スキーで訪れ、木曾駒岳東面滑走、伊那前岳の南面滑



走を行ったが、今年は雪が繋がっており、急斜面にはシュプールが刻まれていた。今期は若手に三ノ沢岳ルートを伝授すべく計画したが、来期は木曾駒・伊那前岳ルートを伝授しよう。アイゼンを装着し出発前の記念撮影、諏訪在住の MI さんとの日は同行することとなり、シャッターを押していただいた。神社で安全を祈願してスタートした。



極楽平への苦しい地獄登りは、いつもは夏道に近いルートで左に迂回するが、今回は直登



に近い急な先行トレースを焦らずゆっくり辿った。稜線まであとわずか、南アルプスをバックに最後の頑張りである。まずは第一関門通過です。三ノ沢岳をバックに極楽平で記念撮影です。宝剣岳の手前の分岐部まで稜線を進みます。三ノ沢岳の迫力の雄

姿です。山頂から雪は繋がっているようで期待されます。テンションは一気にアップしました。空木岳方面も素晴らしい眺望で印象的でした。宝剣岳の岩峰の前で記念撮影後、ここから滑走開始です。

10 数年前に山スキーMLで故 SI さんと、MI さんから紹介されたこのエリアの山スキーは標高差 200~300m を登降するルート取りを工夫すると素晴らしい山岳スキ



一を堪能できるため、小生のお気に入りです。三ノ沢岳に向かう登山客が数 P いるようで、夏道方向に向かって先行しています。山スキーではできるだけトラバースを避けて滑走を楽しみ、楽な登りになるよう工夫するのが合理的です。



・まず諏訪の MI さんが先行滑走しました。素晴らしい迫力のフォームで滑り心地は良いようです。昨年はスタートからしばらくはガリと硬い雪面でしたが、今回は締まった適度の硬さのナイスな斜面です。IK さん急斜面アルペンターン、US さんも気持ちよさそうです。



三ノ沢岳をバックに SA さんの滑りです。斜度が緩んできて快適滑走が続きます。伊奈川源頭部の平坦地に向け快適滑走がまだまだ続きます。



間もなく滑走の第一ステージのフィナーレです。標高差約 300m の最高の滑りを堪能で

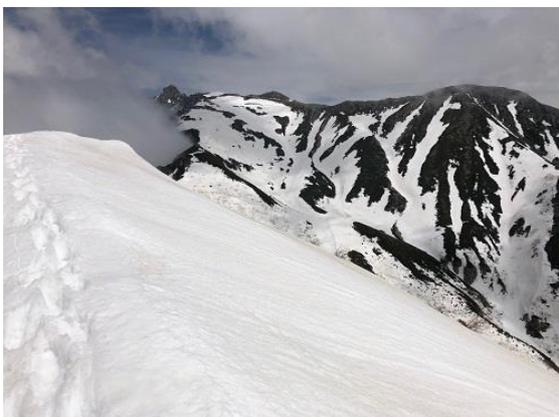


きました。2600mのボトムから山頂への登り上げです。クトー装着してのシール登高が始まりました。登高ラインと滑走ラインをイメージしながらのハイクアップです。急斜面をトラバース気味に徐々に高度を上げます。



オープンスペースは急なため、岩の下部を巻いて行きます。やがて頂上直下の急斜面が落ち込む平坦地に近づいてきました。ハイ松で雪が切れているようですが、辛うじて繋がっ

ており滑走時に通過できそうです。このポイントの手前から右側の稜線に乗り上げるべく急斜面を登りました。夏道ルートは稜線に乗り上げました。宝剣岳の左側は雲が湧いています。



いよいよ頂上に向け最後の頑張りが待っています。頂上直下は 30 度近い急斜面、雪は緩んでいるのでシール・クトーでの登高はそれほど大変ではありません。山頂から下ってきた登山 P の一人が踏み抜いてしまい、なかなか足が抜けなく苦労していました。最後は右側が切れている斜面をトラバース気味に緊張して進むとピークに達しほっとしました。この先にも少し高いピークがあり若手はそこまで足を伸ばしましたが、小生は高度感に足が地につかず、この地点でフィナーレとしました。何かグレートサミットの撮影現場のようです。若手が歓喜のバンザイをしています。これはヤラセですが・・・



それでも三ノ沢岳のピークにスキーで訪れる方は殆どおらず、大満足の登頂山スキーです！！狭い山頂で行動食を採り記念撮影した。



・2011年8月偵察登山、2012年5月最終週に相棒と二人で登頂山スキーを始めて成功させた時は63才、気力も充実し体力もまだ大丈夫であったのか、条件が良くて不安感はなく山頂でシールを外し、板を履いてスタートした。今回は古希を迎え、気力は萎えてきており、バランスも悪く、大事をとってアイゼン装着でケルンまで下ることとした。トレー

スを慎重に辿り両側が切れ落ちているナイフリッジ(?)を通過します。この写真を見ると、前はよくこんなところを、板を履いて通過したなあと我ながら感心しました。



この先は不安のないエリアになります。ケルンまでアイゼン歩行で下山、踏み抜きをしないよう注意していたが、小生の左足がはまってしまいました。右膝をほんの少し捻り気味になり、左足を抜くのに少し難儀しました。さあ、待ちに待った急斜面の滑走です。諏訪のMIさんが飛び込みました。湿雪雪崩を惹起しましたが、速度が遅く安



全地帯のボトムまで滑り込めました。予想はしていたものの不安になり、後続は左周りに斜度の緩いルートを通走しました。ハイ松帯の狭い雪の繋がりを通過し、快適なザラメ滑走を楽しみました。ボトムに向かって藪を縫って滑走します。





ボトムに降り立つ最後の短い急斜面、小生の斜滑降で雪崩を誘発、ターンするきっかけが最後までつかめませんでした。深さ 10 cm 足らず、ゆっくりの湿雪表層雪崩です。数日前の降雪が落ち着いてない状況でした。

- 2550m から 2830m の極楽平まで地獄の登りが始まりました。ゆっくり焦らず一



歩一歩進むだけです。後ろを振り返るとこんな感じで、メンバー一同、よくあんなところに登って滑ってきたものだと自ら満足していました。

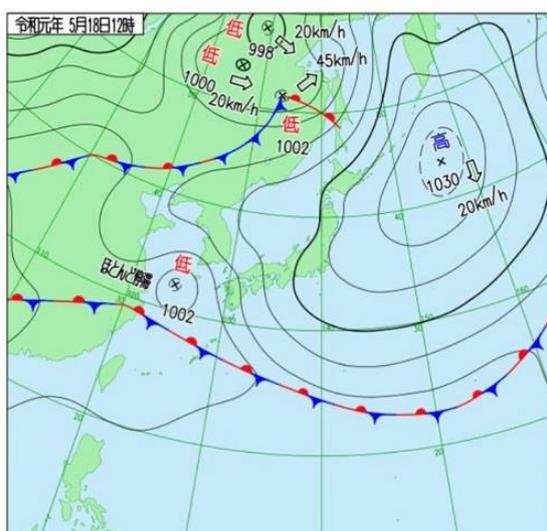
2012 年の登頂山スキーの時は条件が良く山頂から滑走でき、表層雪崩の心配はありません

んでした。この時の写真がこれです。山頂から奇麗にシュプールが刻まれていました。ようやく地獄の登りが終了、極楽平に到着し、これから滑走する急斜面を覗き込むと、先行滑走による表層雪崩跡が広範囲にあります。ノトララインは雪崩誘発の可能性が強く慎重に雪崩跡のエリアを滑走しました。血気盛んなIKさんは35度を超すノトラ急斜面に飛び込もうと他のメンバーと離れて準備しています。

極楽平からの滑走が地獄にはまり込む可能性が大であり、ダイレクトの滑走を禁止しました。われわれの方にトラバースで移動すると



きにはやはり雪崩を起こしながらの斜滑降でした。慎重に雪崩跡の斜面を滑走し、変



化に富んだ素晴らしいツアーのフィナーレを迎えました。温泉で汗を流し、名物の「ソースかつ丼」をいただき、帰業しました。

